

バルトン忌 2025 記念講演会

講演資料集

2025 年 8 月 5 日

主催：NPO 法人日本水循環文化研究協会



バルトン肖像（小川一真撮影）と台北自來水博物館での胸像除幕のシーン
出所; TAIWAN TODAY (2021/3/31)

バルトン忌 2025 特別企画

主催：NPO 法人日本水循環文化研究協会

協賛

台湾政府：台北駐日経済文化代表処、中華民国僑務委員会僑務委員 林月理、陳五福

企業：株式会社 NJS、管清工業株式会社、株式会社カンツール、株式会社日水コン、
前澤工業株式会社（五十音順）

市民団体：NPO 法人日本スコットランド協会

台湾団体：特定非営利活動法人育桜会、台湾国際美食創新交流協会、渋谷国際皮膚科、
東和株式会社（日本華信）

報道関係：水道産業新聞社、日本水道新聞社（五十音順）

協力：東京台湾商工会、松江バルトン会

バルトン忌 2025 特別企画プログラム

午前の部 10:20~11:00 墓参（青山霊園）

午後の部 記念講演会

- | | | |
|-------|--|---|
| 13:00 | 開会の辞 | 総合司会・渡辺勝久 |
| | 主催者あいさつ | 酒井彰（水循環協） |
| 13:10 | 台北駐日経済文化代表処 謝長廷前代表挨拶 | |
| 13:25 | バルトン先生と台湾に縁のある方々からの挨拶 | |
| 14:00 | W.K.バルトンの妹、画家メアリー・ローズ | 稲場日出子（水循環協） |
| 14:25 | バルトンの松江市衛生事項に関する復命書と台湾
～主に提出月日に関する仮説～ | 稲場紀久雄（水循環協） |
| 14:50 | 衛生思想展 2024 の成果から | 岡崎秀紀（松江バルトン会） |
| 15:10 | 休憩（コーヒブレイク） | |
| 15:30 | 座談会：バルトン先生が拓いた日台の水インフラ
に関わる人の「環」 | 謝長廷、八田修一（台湾世界遺産登録応援会）、岡崎秀紀、稲場紀久雄、鄧淑晶、進行：酒井彰 |
| 16:50 | 集合写真 | |
| 17:00 | 閉会の辞 | |

講演資料集

目次

W.K.バルトンの妹、画家メアリー・ローズ	稲場日出子	1
バルトンの松江市衛生事項に関する復命書と台湾 ～主に提出月日に関する仮説～	稲場紀久雄	9
衛生思想展 2024 の成果から	岡崎秀紀	19

【参考資料】

日本水循環文化研究協会バルトン関係資料（Webpage 掲載）

バルトン略年表

巴爾頓年表

関連台湾史年表

W.K.バルトンの妹 画家メアリー・ローズ (Mary Rose Hill Burton)

メアリー・ローズが描いた明治 27(1894)年の東京の風景

130 年の旅をして日本に帰ってきた水彩画二点

スコットランドからの奇跡のような贈り物

2023(令和 5)年 12 月 スコットランドの大切な友人、A,ウィルソンさんご夫妻から
「メアリー・ローズの水彩画を、オックスフォードのオークションで見つけました。
稲場さん夫妻に進呈します。」というメールがあり、取扱注意の紙が貼られた大きな
箱が届いた。

A. ウィルソンさんは、第 2 回バルトン賞を受賞されたバルトン顕彰の功労者である。
箱を開くと、Mary Rose Hill Burton のサインのある水彩画が現れた。

サイズは 38cm × 25cm 保存状態は完ぺきで、19 世紀の画家らしく光と影、
水面のきらめき、そして花と人々の自然な姿が描かれ、どこか江戸情緒が感じられた。
「奇跡としか思えません！」とお礼を申し上げ、すぐにこの絵について調べ始めた。





カタログ No.22 Feeding Carp under the Wisteria (see No,8)
 カタログ No .8 Tea-House Kameida Tokyo (Kameida は Kameido)
 “Why there’s the Fuji swinging lilac links of sweetness”
 In Japan it is the fashion to train wisteria over water.

この水彩画が描かれた場所は、廣重の浮世絵「江戸百景」にあるように、江戸時代からの藤の名所 東京・江東区亀戸に違いない。亀戸天神では、現在も五月に藤祭りが行われる。藤棚の花が揺れる五月の夕暮れ、提灯のあかりの下で鯉や亀に餌遣りをする母子の温かな情景に、メアリー・ローズも思わず心動かされ、微笑んだことだろう。



2024年12月16日 英国から2作品目のメアリー・ローズの水彩画が届いた。それは「英国 Berkshire の閉店する画廊のオーナーが、Mary Rose Hill Burton の水彩画をオークションに出す、という情報があります。この絵を入手したいですか？」という、“亀戸の藤”の画を贈ってくださった Alan Wilson さんのメールから始まった。

Wilson さんが、「日本の研究者のために」とオーナーを説得し、値段の交渉（円安にもかかわらず購入可能な価格で）から、発送まで手を尽くしてくださったようである。

二十数年前、バルトン顕彰事業のため親友の実業家 Aran Wilson さんをご紹介いただいた日本スコットランド協会理事の稲永さんが、複雑な国際金融の振込から関税の件まで力を貸してくださった。

すぐに、運送会社から「すでに大阪空港に保管しています。」という連絡があり、驚いているうちに、あっという間にハリーポッターの魔法のように英国パークシャーから「桜」の絵が京都の我が家に飛んできた！



“JAPAN The Land of Flowers” のカタログで探してみると、カタログ No.53 “Cherry Tree Avenue, Mukojima, Tokyo” 「東京向島の桜並木の道」というタイトルがあった。

隅田川東岸の桜は「墨堤の桜」と呼ばれ、昔も今も東京のお花見の名所として知られる。

Beneath the Cherry-blossoms at Mukojima.



Landing from the river at Mukojima to view the Cherry-blossoms.

W.K.バルトンと妹メアリー・ローズ、その家族、そして130年以上の時を超えて、
現代に続く物語

1855年 父 ジョン・ヒル・バートン と 母 キャサリン・イネス 結婚

(この時、父ジョン・ヒルには、死別した最初の夫人との間の3人の

女の子が残され、父の妹…叔母のもとで養育されていた)

住所は ローリストン・プレイス27

1856年(安政3年)5月11日 兄 ウィリアム・キニモンド 誕生

1857年8月29日 姉 ローズ誕生

1858年9月17日 ローズ 療養先のイネス家の別荘で逝去

1859年7月10日 メアリー・ローズ 誕生

1861年3月5日 転居 クレイグハウスへ

1862年6月8日 弟 コスモ 誕生

【参考 1868年は 慶応4年・明治元年】

やがて、画才あふれるメアリー・ローズは、エディンバラの画塾で学び、

ミュンヘンに留学、次いでパリ留学を修め、 ロンドンやエディンバラで

女流画家として活躍 エディンバラの画学校の講師も務める

1878年 転居 モートンハウスへ

1881年 父 ジョン・ヒル・バートン 81歳で逝去



1882 年 母キャサリン モートンハウスを手放し、クレイグハウスに近い

モンペリエーのフラットに居住

1887 年（明治 20） 兄ウイリー 日本政府に招請され、日本へ

1889 年（明治 22） 弟コスモ 上海の大学に赴任するため、日本経由で上海へ

1890 年（明治 23） 弟コスモ 上海で病死

1893 年 母キャサリン ネス湖畔の別荘 ボレスキン・ハウス購入

1894 年 4 月 兄ウイリーの日英の正式の結婚の儀に出席のため 日本へ

日本のさまざまな地域を訪れ、百枚近い水彩画を描き 11 月に帰国

1895 年 ロンドンの目抜き通り クリフォード画廊で個展

「 Japan The Land of Flowers 」

1896 年 「 JAPAN 」

ネス湖畔のボレスキン・ハウスで、景観保護の活動に参加

アルミ会社や水力発電のために変貌する「フォイヤーズの滝」の絵を多く描く

1897 年 クリフォード画廊で個展 「 PICTURES 」

1898 年 母 キャサリン ボレスキンハウスで生涯を閉じる

1899 年（明治 32）8 月 5 日 兄 ウイリー 帰国を目前に東京で死去 43 歳

1900 年 6 月 5 日 メアリー・ローズ 旅行先のローマの駅で急逝 41 歳

ボレスキン・ハウス



John Hill Burton's Family

John Hill Burton(1809-1881)

m. [1] || 1844

Isabella Lauder(1810-1849)



Isabella Jessie
(1846-)

Eliza Paton
(1848-1905)

Matilda Lauder
(1849-1928)



[Ella was well known
as inheriting the
literary ability
of her father]

m. || 1878

Dr. James Lodger

Christbel

(1880-)

[Lizzy was a wood
engraver,
later a nun]

[Mattie]

m. || 1877

Dr. W. L. Cleland
(1847-1918)

William
Lauder

Sir. John
Burton

m. ||

Dora Paton

Margaret Barbara william
Paton



John Hill Burton(1809-1881)

m. [2] || 1855年

Katherine Innes(1827-1898) daughter of
Cosmo N. Innes

William
Kinninmond
(1856-1899)

Rose
(1857-1858)

Mary Rose
Hill
(1859-1900)
[painter of
genere and
landscape]



Cosmo
Innes
(1862-1890)
[L. B. Sc. phys.]



バルトンの松江市衛生事項に関する復命書と台湾

～主に提出月日に関する仮説～

(余話) 大藤高彦と幻の京都市下水道計画

稲場紀久雄

第 1 節 台北と松江

バルトンは、門下生の濱野彌四郎と共に明治 29 年(1896 年)8 月初め台北市街を踏査し、数多くの難問に遭遇した。難題の一つは、台北市街のあまりに平坦なこと。排水路の勾配が尋常な手段では取れず、汚濁物が排水路の底に沈殿してしまう。

沈殿した汚濁物は、腐敗する過程で病原菌を増殖させ、地下水汚染を激化し、気化したガス成分は悪臭を発し、大気を汚染する。どうすれば、汚濁物の沈殿を防げるか。バルトンは、あれこれ思案するうちに、思いは松江の市街地に移って行った。

松江の市街地は、宍道湖と地続きだから平坦で、地下水位が高い。生活雑排水は垂れ流され、地下水を汚染している。病原菌が増殖すれば、悪疫流行だ。庶民は、汚染した井戸水を生活用水とし、飲用にさえ使っていた。清浄な井戸水を使える人は、限られた富裕層。一旦コレラや赤痢が流行すれば、大惨事になる。130 年前、日清戦争勝利後の松江は、まさにそうした状況だった。松江の衛生環境は、台北と何ら変わりなかった。

バルトンは、濱野と相談し、東南アジアの先進居留地に解決のヒントを捜そうと考えた。二人は、明治 29 年(1896 年)11 月下旬から翌年(1897 年)2 月まで3 カ月間、ヒントを捜し求めて上海、香港、シンガポールを調査した。そして、遂にシンガポールで自分達が沈殿を防げると考えていた形状の下水溝と管理制度に遭遇し、難題解決のヒントを得た。

バルトンは、濱野と共に喜び勇んで台北に戻り、直ちに乃木(希典)総督に報告し、『台北其ノ他ニ於ケル衛生工事設計ニ就キ意見』を建議。総督府評議会は、この建議を承認した。衛生改善対策は、当時の台湾統治にとって揺るがせに出来ない課題だったのである。

バルトンと濱野は、建議に基づいて、明治 30 年(1897 年)7 月から南部諸都市の調査に着手し、およそ2 カ月後の9 月 10 日乃木総督、総督府の関係部課長、市区改正委員、中央衛生会委員など責任者 70 余名を前に調査結果を報告し、最終的な整備方針案を説明した。こうして、台湾全土の衛生改善に対する基本方針が固まった。バルトンは、濱野と共に基隆に第一歩を印してからおよそ1 年2 カ月という短期間で基本方針を固めたわけである。二人の猛烈な仕事ぶりが伝わって来るようだ。

バルトンの脳裏には、この間、常に松江の問題が刻まれていた。基本方針が固まって時間に余裕が出来た明治 30 年(1897 年)の秋から冬にかけて、バルトンは松江の衛生対策の検討に着手した。こうして、復命書は、明治 31 年(1898 年)4 月 2 日に脱稿され、松江で行動を共にした高橋(辰次郎)に郵送されたのであろう。高橋は、直ぐバルトンの英文の復命書を翻訳したが、最終的にバルトンの了解を取らなければ正式に内務省に提出できない。ところが、

高橋は日本国内、バルトンには台湾、二人を隔てる距離は極めて遠い。しかも、バルトンは、台湾全土の衛生対策の総責任者であり、超多忙。その上、明治 31 年(1898 年)という年は、思いも及ばない不幸がバルトンを次々と襲った最悪の年だった。このため、やむなく復命書の提出を延期せざるを得なかったと考えられる。そこで、以下に、先ず復命書の要点を、次に復命書の提出月日の遅延理由に関する私の仮説を紹介する。

【復命書の要点】

復命書(次頁の資料参照)は、提出年が明治 32 年(1899 年)、月日が空白の提出文書と、作成年月日が明治 31 年(1898 年)4 月 2 日と明記された復命本文からなる。提出月日が空白だから、復命書は提出されなかった可能性もある。仮に提出されていたとしても、復命本文の作成から提出までに何故 1 年もの期間を要したのか。この理由は、次項の仮説に譲るが、「バルトンが復命書に拘った理由」に関して私見を述べておきたい。この点が復命本文の内容に深く関係するためである。

仮に提出遅延の理由が提出文書中の「平面測量並に高低測量の実施の必要性」だけなら、もっと早く提出出来た可能性があるだろうし、場合によれば踏査を共にした門下生の高橋辰次郎に代筆してもらうことも可能だっただろう。だが、バルトンには、どうしても“直接伝えなければならない”と考えた理由があったのだろう。その理由は、何か。

松江市の下水溝は勾配がなく、下水は地中に浸透し、種々の沈殿物が溝の底に溜まる欠陥があった。沈殿物は、腐敗し、人身に影響を及ぼした。ところが、シンガポールで改良された下水溝を見聞し、その実例を基に現在台北で学理上有効な下水溝の試作と実用化の実験が進んでいる。その結果が間もなく出る。そこで、松江の衛生対策は、もうしばらく待って、その結果を踏まえて講じた方が良い。バルトンは、真剣にそう考えていたのだろう。

バルトンには、「富豪は、清良な飲用水を使えるが、貧しい人々は汚れた水しか使えない。一度悪疫が流行すると、貧しい人々が真っ先に甚大な被害に遭う。このような事態を引き起こしてはならない。衛生工学者は、そのために存在しているのだ」という堅い信念があった。バルトンは、内務省から松江市の下水排出の改良を命じられた訳では無かった。しかし、松江市の実情を見てしまった以上、放置することは出来なかったのだ。父ジョン・ヒル譲りの生粋のペンサミアンだったバルトンは、この思いから復命書の提出に拘り続けていた。門下生・高橋は、師バルトンのこの思いを誰よりも分かっていた。

ここで、注意すべき点がある。バルトンは、高価な西欧型の最新施設を松江に造ろうとしていたわけではない。一人でも多くの人命を投入可能な資金の範囲内で救おうとしていたのである。この点を忘れてはならない。バルトンの考えは、現代に於いても発展途上国の技術支援の基本原則ではないだろうか。かつて日本下水文化研究会が、そして現在は日本水循環文化研究協会がバルトン忌を開催し、バルトン賞を贈っている基本的な思いは、この基本原則を大事にし、何時までも持続的に伝えたいという願いにある。

資料

松江市衛生事項並ニ右改良方法ニ

関スル復命書

余ハ島根県松江市ニ於テ施工スヘキ給水ノ方法如何ニ付
実地検分ノ上復命スヘキ御命令ニ依リ、去ル明治廿八年
中土木監督署技師高橋辰次郎ト共ニ同市ニ出張ノ上右検
分ヲ遂ケ候処、予定水源地数多アリテ夫ノ撰定ニ関シテ
ハ各水源地ニ付平面測量並ニ高低測量ヲ施行スヘキ必要
有之、其結果ニ依ラサレハ確タル復命難致次第ニ付、右
測量ノ儀同市長ニ依頼セシニ、施行ノ都合上時日遷延ノ
後該結果ヲ得タルニ依リ、其當時復命スル能ハスシテ今
日別紙復命書ヲ提出スルノ不得已次第ナルハ聊カ遺憾ナ
キ不能次第ニ有之候。左ニ要領ヲ記シ此段及復命候也。

明治三十二年 月 日

ダブリユー・ケイ・バルトン

内務大臣 侯爵 西郷從道殿

要案抜粋

水

現今ノ飲料水ハ多ク底浅キ堀井戸ヨリ汲取ルモノナルカ
故ニ水質甚宜シカラス。而シテ此人口繁榮ノ市街ニ在テ
ハ此種ノ給水方法ハ必ス排斥スヘキモノナリ。

該市居住ノ富豪者ハ附近ノ岡丘又ハ村落ヨリ飲用水ヲ汲
取り使用セリ。此飲用水ハ清良ナリトノ事ニテ余モ亦必
清良ナルヘシト信ス。

右ニ反シ貧者ハ市内ニ存在スル底浅キ井水或ハ湖水又ハ
湖水ヨリ引入タル溝渠ノ水ヲ以テ飲料ニ供セリ。故ニ右
等水質ノ不良ナルハ言ヲ俟タス。右清水、湖水及溝渠水
中何レカ最不良ナルカハ直ニ判定シ得ルモノノ非サレト
モ、恐ラクハ井水ナランカ。兎ハ云ヘ前記三種ノ水質ハ
何レモ不良ナリト断言スルモノナリ。

余ハ今此復命書ヲ認ムルニ当リ前記各種ノ病症ニ付テハ
松江病院長医学士山崎幹氏ノ説明ニ拠レル所多ク、深ク
同氏ニ謝セサルヲ得ス。同氏ノ説明中、夏時湖水ノ惡臭
ヲ放ツニ當ツテマラリヤノ流行盛ナリ。又往年ハ伝染病
少ナカリシモ、明治十九年虎列刺病ノ流行猖獗ヲ極メ、
其當時ニハ患者百以内ニ対シ死者殆ント八十名（此比例
ニ拠ル時ハ病症ハ最惡症ナリシカ如シ）ニ達セシ如キ慘
状ヲ呈シ、其結果トシテ明治廿二年ニ至ルモ尚インフル
ーエンザ病ノ患者多カリシヨリ見ルモ、病症ハ実ニ猛惡
ナリシナラン。

余ハ出発ノ前、当市下水排出ノ状況ニ付視察ノ命ヲ受ケ
サリシモ、余ハ専門上土水視察ト共ニ右検分ヲ為セシニ
依リ、該件ニ付左ニ數項ヲ記スルモ敢テ冗言ニ非サルヘ
シ。

現今下水排出ノ方法ハ本邦普通ノ方法ナリ。其方法タル、
普通ノ溝ニ上ニ板或ハ石ヲ以テ不完全ナル覆ヲ為セシモノ
ニシテ、該溝ニハ殆ト勾配ナシ。去レハ下水ハ地中ニ浸
入シ、同時ニ溝中種々ノ沈殿物ヲ残スモノナリ。

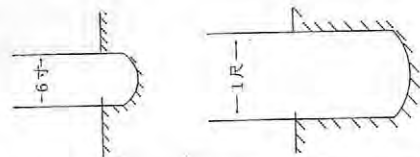
夫レハ市内在来ノ

各下水ヲ改造シ適度ノ勾配ヲ付シ、該下水ハ隨時市中ヲ
横断セル附近ノ水路ニ排出スルニアリ。而テ右ノ如クセ
ハ該水路中ノ水ハ多少腐害スルノ恐アリト雖、該水路ハ
平常適度ノ速力ヲ以テ流通セルニ依リ、人身ニ害ヲ及ホ
スヘキ恐ハ更ニナキモノナリ。

余ハ工学士濱野彌四郎ト共ニシンガポール市ヲ視察セシ
結果ニ依リ、前記ノ如ク本邦在来ノ下水ノ構造ヲ維持シ
多少改造ヲ加フルヲ以テ下水ノ改良ヲ完フシ得ヘキヲ信
ス。今同市ニ於ケル下水排出ノ方法ハ、本邦在来ノ下水
ト殆ト同様ナレトモ只左記ノ点ニ於テ多少ノ差異アリ。

- (1) 下水ハ煉瓦、石材或ハ混凝土（セメントヲ以テ造
リ上ケタル）ヲ作り、其底部ハ卵形下水管ノ底部
ノ如ク円形ナリ
- (2) 水準ハ特ニ正確ノ計算ヲ施シ、適度ノ勾配ヲ付セ
シガ為メ、下水ノ始ハ成ルヘク路面ヲ近クシ終ル
ニ至ルニ随ヒ漸次溝深ヲ増加シタルモノナリ。

左ノ図ハ右ノ構造ヲ明ニセシモノナリ。



台灣總督府ハ余ノ意見ニ拠リ、目下台北ニ於テ学理上有
効ナル断面ヲ有シ且確實ナル構造ニ係ル無蓋下水ヲ築造
中ナリ。依テ松江市ニテハ右台北下水ノ結果如何ヲ確ム
ル迄ハ、下水ニ対シテハ依然手ヲ下サベル機余ノ切望ス
ル所ナリ。

右之通

明治三十一年四月二日

東京

ダブリユー・ケイ・バルトン

附言

工事施行ノ場合ニハ余ハ此処ニ記載セシ外、尚種々
ノ注意ヲ与ヘント欲スルモノナリ

【仮説：復命書提出の遅延理由】

復命本文が1年もの間、提出されなかった理由は、私の仮説だが、次の4点である。

(第1点) 明治31年(1898年)前半は、バルトンにとって超多忙な時期であったこと。

児玉源太郎が同年2月26日第4代総督に、親友・後藤新平が3月2日付けで民政局長に就任。バルトンの顧問技師の嘱託契約は3月20日更新され、さらに後藤は6月20日付けで民政長官に昇任した。バルトンは、この時期、復命書どころではなかったのだ。

(第2点) バルトンは、台北市の水道水源地踏査の過程で悪質な風土病に罹り、生死の境をさま迷ったこと。『ジャパン・ウィークリー・メール』は、「同時期に同じ風土病に罹患して入院した患者12名の内、生還できたのはバルトン唯一人」と伝えている。

(第3点) 母キャサリンが同年11月29日この世を去ったこと。バルトンは、12月半ば、国際電信で母の死を知った。年明け早々、妹メアリー・ローズが「11月29日母逝去」を急報して来た。義兄は、「バルトン家の長男の義務を果たして欲しい」と手紙を寄こした。だが、バルトンは、明治32年(1899年)初め、またまたアメーバ赤痢に罹った。

(第4点) 復命書は、英文で書かれていた。翻訳者は、手続き上、訳文の了解をバルトンから得る必要があっただろう。翻訳者は、松江で行動を共にした門下生の高橋辰次郎であろう。高橋は日本国内、バルトンは当然台北。しかもバルトンは、次々と不幸に見舞われた。高橋は、師バルトンの健康を考え、無理をさせられないという気持ちだったに違いない。

バルトンにとって明治31年(1898年)という年は、最悪の年だった。だが、翌年は好転したかに見えた。明治32年(1899年)4月19日台湾下水規則(法律第6号)が制定され、台湾の衛生制度が固まった。後藤長官は、バルトンに60日間の長期休暇を許可した。そこで、バルトンは、家族と共に母国に一時帰国するため基隆港を後に一旦東京に戻ることになった。5月10日の事である。復命書は、この頃、提出可能となったが、またしても不幸がバルトンを襲った。赤痢が再発、医科大学病院に緊急入院したが、遂に帰らぬ人となった。

復命書の月日が空白になっている理由は、バルトン逝去の爲ではないだろうか。仮にそうだとすれば、復命書は、バルトンが遺した最後の作品になるのではないだろうか。幸いにも復命書は、松江市当局者に渡し、大切に保存されたため私達は復命書を読むことが出来る。

高橋は、師バルトンの逝去の報に接し「師の仕事を引き継がねばならない」と決意し、総督府への転出を申し出たと言う。師弟の絆は、強いものであった。

もう一人、同じ思いの門下生が居た。大藤高彦である。バルトンは、明治28年の夏、松江の踏査の後、京都市下水道計画調査を行った。大藤は、この調査を引き継ぎ、明治32年3月下水道計画を提出した。計画書には、バルトンが拘った下水溝底の汚濁物沈殿問題が取り上げられている。二人の間には情報交流が続いていた可能性がある。大藤の計画は、「幻の計画」に終わったが、バルトンの後任教授・中島鋭治がリードしたその後の上下水道計画とは考え方が異なっている。今や、時代の転換期である。再評価が望まれる。(以上)

＜参考＞

『復命書』の謎!？ —表紙は明治32年(1899)・日付なし・松江市水道部、

後半部のバルトン署名は東京・明治31年(1898)4月2日—

『復命書』は冒頭が松江市長への事前調査の概要報告(明治28年6月25日付)、残りの大部分が内務大臣への衛生と改良方法に関する技術的内容となっている。後半部の署名は、「明治三十一年四月二日 東京 ダブリュー・ケイ・バルトン」とある。バルトンは台湾の第二期水源調査に出発する直前に、東京でまとめた。日本・台湾を行き来するバルトンの動向がつかめなくて、松江市は『復命書』の表紙の日付を、明治32年(1899)としたものと思われる。それはバルトン死去の前年であった。海外視察(1896-97)の成果を取り入れ、松江の下水排水方法について、具体的に提案していることに注目したい。バルトンによる最先端の下水技術の情報提供、指導を受けながら、松江における下水道工事・改良案は、上水道が完成(1918)した後、完全に忘れられた。下水排除が第一！市民の義務!!というバルトンの精神こそ、松江市は継承すべきであったと強く感じている。

(岡崎秀紀「W.K.バルトンが計画した松江市と台湾の下水整備」、67頁、
「松江市における衛生思想の歴史と今」より)



バルトン

高橋辰次郎

第1節 大藤の幻の計画

バルトンは、明治28年(1896年)8月の初め、松江市の調査を終えた後、京都府技師・谷井鋼三郎と共に京都市下水道計画を策定するため市域一帯を踏査。谷井もバルトンの門下生。谷井は、明治30年11月『京都市下水工事ノ起工ヲ必要トスル意見』を提出した。踏査を行ってから、およそ2年の歳月が流れていた。バルトンは、この間、台湾のために懸命に活動。門下の大藤は、師に代わって京都市下水道計画の策定に取り組みたいと考えるようになっていた。

大藤は、明治32年(1899年)3月末『京都市下水道改良計画ニ付報告』を、さらに2カ月後の5月『京都市給水方法及其計画ニ付報告』を矢継ぎ早に提出。ドイツ留学直前であった。師バルトンは、3カ月後この世を去った。大藤とバルトンとは、目に見えない糸で結ばれていたようだ。大藤は、留学から帰国して2年後、京大総長推薦で博士号を得た。推薦理由は、「上下水道並ニ都市計画特に構造強弱學」であった。

大藤の『京都市下水道改良計画ニ付報告』書は、下水道工学の専門書には全く出て来ない。私は、偶然『近代都市環境研究資料叢書3 近代都市の衛生環境(京都偏)』(近現代資料刊行会、2011年)全37巻中の第31巻『上下水道①』に収録されていた『京都市下水道改良計画に付報告』全文を発見。報告に記された計画理念は、中島鋭治及びそれ以降の考え方とは相当程度異なる。大藤の計画は、バルトンの首都東京の計画同様、「幻の計画」となった。

第2節 大藤の計画理念

彼の計画理念は、現代の私達に何を示唆しているのだろうか。重要ポイントを抽出し、項目毎にその意味を考え、計画理念を明らかにしたい。

[ポイント1] 「公衆衛生工事トハ上水ノ供給並ニ下水排除ノ完全ナル工事ノ謂ニシテ(略)二者中何レヲ先ニスヘキヤ(略)今試ミニ単ニ工事上ヨリ見ヲ起シテ之ヲ論スルトキハ下水道改良ヲ以テ先ツ着手スルノ便且利アルニ若カサルナリ」

(説明) 上水道は、水を圧送する。下水道は、自然の地勢(勾配)を利用して下水を自然流下で流す。水路に障害があると、汚濁物が停滞し、清掃が必要になる。技術的には、上水道は下水道より簡単である。下水道は、汚濁物の停滞を避けるため、下水溝の構造が複雑になる。

「上水と下水とどちらを先にするか」と問われると、技術的には下水を先行させるべきである。下水道を先行させると、「井水も幾分改良される」利点がある。(ポイント4~6参照)

下水溝の底に汚濁物が堆積しないよう工夫が凝らされ、下水溝の形状や勾配の確保が重視された。なお、「下水道先行」という意見は、当時の京都の有識者共通の見解だった。

(原則1) 技術の限界を知り、短所の克服にチャレンジすること。上下水道のメリット、デメリットの総合的評価を重要→現実的判断

[ポイント 2] 「本市ノ如ク遠ク海岸ヲ離レ下流ニ都市ヲ有スル所ニアリテ合流法ヲ採用スルコトハタダニ事情ノ許サザルノミナラズ、地勢上合流法ヲ採用スルモ敢エテ益スル所ナキヲ信ス。況ヤ汚水処理ノ方法ニ於テ分離法ノ大ニ勝レル所アルニ於テヤ」

(説明) 大藤は、鳥の眼で流域を見た(鳥瞰)。京都は、淀川中流域に位置し、下流の大阪に与える影響を考え、「合流式」の採用を無益と断定する。大藤の断言は、まことに明快。京都の淀川下流域の水質保全に及ぼす影響、そしてその役割を深く理解していた。ここで、分流式が汚水処理に優れた効力を持つことが書かれている。特に下水処理は、現行下水道法に規定する「放流」より広範な意味を含意していることを付言しておく。(ポイント 3、7 参照)

(原則 2) 流域運命共同体。上流側は、下流側に悪影響を与えないこと。→流域思考

[ポイント 3] 「欧米ニ於イテハ汚水中ニ糞尿ヲ放流スルヲ例トスルモ本邦ニ於テハ糞尿ヲ最良肥料トシテ処分セラレ(略)放流スルノ習慣ナシ(略)後世各戸悉ク之ヲ汚水中ニ放流スルノ時機到来スルモ妨ケナカラシメンカ為メ、汚水溝ノ断面積ハ充分余裕ヲ存シ置ケリ」

(説明) 糞尿は、日常生活の鏡。合成食品常用者のそれは化学物質を、病者のそれは病原菌を含む。衛生対策として糞尿の収集方式は、極めて重要。糞尿収集は、水運式でなく、糞尿をそのまま収集した方が合理的。(肥桶一荷車)方式が衛生対策としては、理に適っていた。水運式は、快適性・速効性・利便性が高いが、重大な欠点を持つ。大藤時代の下水は、生活雑排水主体。大藤が将来を見越して下水溝の断面に余裕をもたせたことは、先見性が高いように思えるものの、衛生理念としては徹底性を欠くものと思える。

猪子止才之助(京都帝大医科大学教授)は、明治 32 年 7 月『京都市上下水道工事ニ対スル衛生上ノ意見報告』を提出し、ロンドンの技師長バザルゲットの「大遮集幹線による下水道システム」を批判した。ロンドンでは水洗トイレを通して市中の糞尿が大遮集幹線管渠に投入され、遠く海洋に放流される計画であった。だが、その目的は容易に達成されなかった。猪子止は、報告の中でバザルゲットを厳しく批判した。

京都では既に西欧型なら何でも礼讃する風潮は無かった。明治維新から 30 数年、冷静な批判精神が育っていた。注意を要する点は、大藤の師バルトンが 10 年余り前策定した首都東京の下水道計画に於いてはバザルゲット方式が採用されていない事実である。大藤は、師バルトンの首都の下水道計画に学んでいたであろう。ただ、将来を見越し管渠断面に余裕を持たせた。敢えて大藤を擁護すれば、彼は糞尿の水運式収集方式の是非を将来に委ねたのであろう。私は、現在でもこの問題は、解決されていないと考えている。水運式以外に空送式を始めその他の方式も考えられ、様々なメリットが想定できるからである。

〔原則 3〕 生活雑排水主体の分流式採用の勇氣を持つこと→糞尿合併処理は将来の課題

〔ポイント 4〕「最大雨量ヲ一時間ノ雨量ニ改算シ其ノ百分ノ六十ハ雨水溝ニ放流セラルルモノト假定シ、残余ノ百分ノ四十中小部分ハ蒸発シ大部分ハ地中ニ侵入スルモノトセリ(略)下水改良後井水ノ欠乏センコトヲ杞憂スル論者アリト雖モ(略)欠乏ニ苦シムカ如キコトハ決シテ之ナキヲ信スルナリ」

〔説明〕大藤は、降雨を雨水溝で流す部分と大地に浸透させる部分に分ける。浸透部分は、井水の欠乏を防ぐための地下水涵養に当てられる。つまり、浸透が明確に計画下に置かれている。現行下水道法は、雨水を「排除」の対象とし、「浸透、滞留、貯留」を無視している。

一例をあげれば、合理式に拠る雨水流出計算法では、仮に流出係数を屋根面や路面のような不浸透面では 1、庭や芝地のような浸透面では 0.5 とすれば、不浸透面と浸透面の面積割合が 1 対 1 の場合、総括流出係数は 0.75 となるとして最大雨水流出量を計算する。

この計算では、地表面での「最大雨水流出」量が問題で、流出外即ち「浸透など」は視野にない。井戸が枯れようが、湧水が無くなろうが、関係がないのである。現行下水道法上は適法だが、水景観も水循環の健全化も、どうでも良いのである。目的を「排除」のみでなく、水景観や水循環健全化を含めれば、流出計算法はもち論のこと計画内容は根本的に変わる。例えば、「春の小川の再生」のような水景観保全を目的とすれば、計画内容、例えば不浸透面と浸透面の面積割合、浸透型施設整備、浸透地と土質改善、緑地整備、修景型整備など計画内容は、根本的に変わる。こう考えると下水道整備が都市の無味乾燥化、ヒートアイランド現象に大きな役割を果たしたと言えるだろう。私達は、今や大転換の時代におり、既に遅きに失している。私は、50 数年前、都市域の雨水流出計算法を研究したが、何の疑問も持たず「地表面流出」のみを対象としていた。今、当時の己の視野の狭さを恥じるものだ。

〔原則 4〕 計画は、「降雨」を原点に、水循環の健全化を→排除だけでなく、総合的視野で！

〔ポイント 5〕「雨水溝及污水溝ノ形状及構造ハ途中ニテ固形物ヲ沈殿シ又ハ污水ヲ漏洩スルコト無カラシメ且疎通円滑ニシテ而カモ勾配ノ急ナル流速ノ大ナル所ト雖モ水路表面ノ磨剥セサルヲ必要トス(略)少量ノ流水ニテモ適当ノ流速ヲ保チ沈殿物ナカラシメン為メ底部ハ之ヲ円形トセリ」

〔説明〕汚濁物の下水溝底での沈殿堆積防止に全知全能が傾けていると言える。有機性汚濁物は、徐々に腐敗し、液化し、気化する。かくして、地下水を汚染し、気圏に漏洩して大気を汚染する。沈殿堆積物が水圏、気圏、土圏を汚染する元凶となるわけである。

バルトンが松江市の下水排水に関して強調した下水溝底の沈殿物防止に関する問題と基本的に同じ内容。バルトンと大藤との間に何らかの情報交換があったのではないかと想像させるものがある。(報告提出月日が明治 32 年 3 月と言う点も不思議に思える。)

例えば、本年 2 月に勃発した埼玉県八潮市の陥没事故の主因は、下水道ということだが、大藤の計画理念が徹底しておれば、事故そのものが起こらなかった可能性が高い。

(原則 5) 汚濁物の沈殿堆積を防ぐこと→汚濁物の腐敗・ガス化に注視

【ポイント 6】「汚水溝ニアリテハ通風ノ宜シキヲ得セシムルヲ期セリ」

(説明) 大藤が暗渠の換気通風に注意を払っていることに驚かされる。汚水の大部分が生活雑排水であるにも拘らず、である。大藤は、次のように汚濁物の気化の恐ろしさを強調している。「一丁内凡三カ所ノ予定ヲ以テ通風管ヲ高ク屋上ニ架設シ、輕浮ノ臭氣ハ之ヨリ高ク飛散シ(略)新鮮ノ空氣侵入シテ溝内ヲ流通スヘキ」

「人命の尊重」が重視されているはずの現代に於いて、大藤のこのような認識は、どこに行ってしまったのだろうか。「人命の尊重」は、「衛生工学」と言う学問分野においては単なる建前であってはならない。

(原則 6) 暗渠においては溝渠の換気通風に配慮すること→汚濁物の腐敗・ガス化に注視

【ポイント 7】「コノ計画ニ採用スル汚水処分法ハ此ノ灌漑濾過二法ノ混用ヲ取レリ即チ市外各幹線放流口ニ対シ適当ナル箇所ニ(略)濾過池ヲ設ケ汚水ノ灌漑ヲ要セサル時期ニアリテハ此ノ池ニ由テ汚水ヲ清浄ニシ夏時耕作時ニハ一般田野ニ従前ノ如ク灌漑セシムル計画ナレバ決シテ市街田野灌漑用水欠乏ノ憂イナク洵ニ一挙兩得ノ策タルヲ信スルナリ」

(説明) 汚水の浄化は、再利用のための浄化と水域の水質保全(自然生態学的利用)のための浄化の両様がある。大藤は、利用の時期と利用量を組合せて両様の浄化方式を導入している。現行下水道法は、浄化後の水は単に「放流」と規定するのみである。つまり、後者の浄化なのであろう。だが、大藤の理念は、総合的な利用の視点に貫かれている。

ここで思い出すのが広島市の牡蠣養殖に関して、「下水高度処理が牡蠣に必要な養分を除去している。処理水準を引き下げるべきだ」という水産関係者からの意見があったと聞く。計画は、利用と保全の両立の上に成立する。

(原則 7) 汚水の浄化は、再利用をも前提とすること→単なる放流でなく、利用を含む意識を！

第 3 節 大転換の時代に

埼玉県八潮市の陥没事故の発生、災害時のマンホールトイレという衛生上問題のある発想、非常時対策の無策等を思う時、およそ 130 年余り前の大藤の基本原則と現実との乖離の大きさを痛感する。両者を隔てる 130 年の歳月の間に、私達は「快適性や利便性を一刻も早く我がものとしたい」という欲望剥き出しの方向に後退したのだろうか。

今こそ原点に回帰し、大藤の計画理念と中島以前の学統を再評価し、水循環の健全性持続の視点から「恒常性」を担保する施設整備を進める転換の時代である。 (以上)

京都市下水道改良計畫ニ付報告

總論

嘗テ山紫水明ノ樂士ヲ以テ天下ニ誇リ世人亦之ヲ首肯セシ京都市モ
 今ヤ理學ノ進歩ハ久シク其美名ヲ擅ニスルヲ許サス化學的精査ハ市
 内井水ノ大半不良ナルヲ示シ衛生上ノ統計ハ必スシモ健康地タルヲ
 保セサル等皆上下水改良ノ實施ヲ促サ、ルハナク爲メニ本員等之カ
 調査ヲ嘱托セラレ茲ニ先ツ下水改良計畫ノ梗概ヲ報告スルニ至レル
 ハ深ク本員等ノ榮トスル所ナリ

抑モ公受

大藤高彦 おおふじ・たかひこ 構造力学

1867.11.24 ~ 1943.12.7。京都府に生まれ
 る。1894(明治27)年、帝国大学工科大学土
 木工学科卒。96年、第三高等学校教授。97
 年、京都帝国大学理工科大学助教授。99年、
 土木工学研究のためドイツへ留学する。



1901年にアメリカへ転学し、同年に帰国し、
 教授となる。1914(大正3)年、京都帝国大学
 工科大学学長。19年の官制改正により京都
 帝国大学教授、工学部で構造強弱学講座を
 担当した。

事ノ謂

キモ物價ニ高低ナキ以上ハ著シキ増減ナキコトヲ信スルナリ

明治三十二年三月三十一日

臨時土木調査委員

工學博士 二見鏡三郎

臨時土木調査委員

工學士 大藤高彦

レジュメ： バルトン特別企画 記念講演会

2025 年 8 月 5 日バルトン忌(東京)

松江バルトン会 岡崎 秀紀

テーマ 「2024 衛生思想展の成果から」 14:40～15:00

【展示会概要・特徴】 ※展示会チラシ配布

期間 2024.10.1～11.3 於島根大学附属図書館

テーマ 衛生の歴史(普及と実現)と4人の先人の業績

【見どころ】

○黎明期に活躍した4人の人物にスポットをあてた。

A.ローレツ(1864-1884) 奥国出身、“衛生思想の祖”・“ドイツ医学教授”

1874 来日、76 年より愛知県公立医学校でドイツ医学・衛生学を教授。

田野俊貞(1855-1910) “衛生思想普及の先駆者”

ローレツに学ぶ。後藤とは終生の友。衛生思想の普及(愛知・島根)に尽力。

後藤新平(1857-1929) “衛生国家の推進者”

ローレツに学ぶ。衛生局長、台湾民政長官、東京市長など政治行政分野で活躍する。

W.K.バルトン(1856-1899) 蘇国出身、“衛生工学の祖”“上下水道の父”。

1887 年来日。工科大学衛生工学教授、内務省技師。全国・台湾の水道設計に従事。

- 長与専斎の衛生の概念、個人から社会へと拡大し得た業績は偉大である。
この過程をわかりやすく明らかにして公開した。
- ローレツに学んだ 2 人の医師(田野と後藤)が、国家衛生と自治衛生の両輪となって、衛生の道を推進した。
- 田野俊貞がドイツ医学を学んだ当時の、最先端のドイツ語の医学文献(計 10 点)を初めて公開した。
- バルトンが実施した全国 29 都市の衛生調査を日本地図の上に、また台湾での調査を台湾全島地図の上にプロットした。松江市の調査は、全国 26 番目であった。
- バルトンの松江講演(1895)から発想した、「幸福の循環サイクル」と「自助力」の提言
※稲場紀久雄氏提言(『衛生の道』2023)

【新発見】

- ◎ 日本の衛生思想のルーツは、愛知県公立医学校(現名古屋大学医学部の前身)であった。このことを、新たな関係資料をもとに提示できた。
- ◎ 衛生思想実現の流れは、愛知県公立医学校でのローレツから田野・後藤、さらにバルトンへと繋がる。
- ローレツと後藤、田野は同僚となり、ローレツから学んだ衛生学(hygiene ヒュギーネ)を公衆衛生(社会全体の健康を守る)へと進展させた歴史を明らかにし公開できた。現代の予防医学の基礎を築いた業績といえる。
- 後藤や田野が A.ローレツから衛生学を学んだ時期は、世界史的に見ても早く、日本では初であった。
- 4 人の先人は、衛生思想の普及・実現および松江をキーワードに繋がっている。
- 台北と松江は、バルトンの上水道調査・計画ばかりでなく、下水道技術でも繋がった。最新の下水道技術の情報(バルトン視察の海外情報)は、共通であった。
- 『明治三十二年 松江市衛生工事復命書』の末尾で、海外の最新下水道技術を書いて、情報提供および注意喚起をしている(バルトン署名 1898.4.2)。

- バルトンは松江講演で「下水改良は市民の義務」(1895 年)と強調した。その後、松江市はこの提言を活かさなかった。財源を理由に上水道のみの対応で進んだ。

【成果・評価】

- (1) 衛生思想の普及と実現を、世界と日本における衛生思想の動きと絡めて、4人の先人の業績を紹介しつつ説明できた。
展示会、図録とも、衛生思想分野では初めての取り組みであった。
- (2) 松江市民に衛生の考え方を起点にして、先人が取り組んだ上水道整備の歴史を知ってもらうことができた。地域で初の衛生思想展示会であった。
- (3) 『図録』の刊行は、この分野、テーマで初めてのものであった。
衛生思想の歴史を全国的に捉えて解説した『図録』の刊行は、大きな成果となった。
A.ローレツ、田野俊貞の略年譜は、最新研究の成果を取り入れ、充実した内容とできた。

【感想】

彼ら先人が築き上げた公衆衛生(手洗い、うがいなど)の考え方・指導法は、コロナ禍において我が国でも日々励行した事実がある。衛生学の中に衛生工学(上下水道整備)があり、衛生と衛生工学は常に一体である。



The screenshot shows the Amazon Japan product page for the 2024 exhibition catalogue. The product is titled '2024 展示会図録 松江市における衛生思想の歴史と今' (2024 Exhibition Catalogue: History and Present of Hygiene Thought in Matsue City). It is a paperback book priced at ¥1,650, with a 17-point discount (1%) and free Prime shipping. The page also features a section for the 2024 Matsue Burton Club material collection, volume 3, priced at ¥1,000 with a 10-point discount (1%) and free Prime shipping. Both items are scheduled for delivery on June 20th.



発行 松江バルトン会
MatsueBurton1895@gmail.com
発行日 2025 年 6 月 1 日
A4 版全 92 頁カラー版
出版 アマゾン KDP

出版情報・ご購入↑↑

【24 衛生思想展 図録出版のご案内】
松江バルトン会



文化 Culture

「松江の衛生思想」展示会を振り返って

〈岡崎 秀紀〉

2024年10月、松江バルトン会は「松江市における衛生思想の歴史と今」をテーマに、島根大学で展示会を開いた。

その趣旨は、病気から身を守る日本の「衛生」の礎を築いた4人の先人、A・フォン・ローレツ、オーストリア人、医師▽田野俊貞（松江市、医師）▽後藤新平（医師、官僚、政治家）▽W・K・バルトン（スコットランド人、衛生工学、松江の水源地調査）の業績を紹介することだった。

展示では、明治以降の日本における衛生学や衛生思想の始まりからの歴史的展開を示すことができた。

その源は1876（明治8）年から愛知県公立医学校（名古屋大医学部の前身）でドイツ医学、衛生学を指導したローレツだ。その同僚に、田野と後藤がいた。

田野はローレツがドイツ語で講義した衛生学を口訳し『断訟医学』（1886年）を刊行した。後藤はローレツが提示した「衛生警

生命優先、人間尊重の精神



展示会「松江市における衛生思想の歴史と今」
〓松江市西川津町、島根大

察学及び裁判医学」（リヨン著、1867年）の翻訳会長に就いた。この頃、後藤が田野に宛てた扁額「好生之徳治于民心」（人の生命を大切にすると徳を万人になわち公衆衛生への道を決意した）と回顧している。

野は衛生知識の普及、人材育成のために、愛知県で私立衛生会・愛衆社（1880年）を立ち上げ、田野が立衛生会に就いた。この頃、後藤は「自分、生之徳治于民心」（人の生命を大切にすると徳を万人になわち公衆衛生への道を決意した）と回顧している。

後藤は国内外の衛生で手腕を発揮。台湾の初代民政長官、満鉄初代総裁、東京市長時代の活躍は「衛生国家の推進者」と映る。

4人の先人は、日本の衛生思想の普及と実現でつながっている。松江の衛生史の本流にあって、特に名古屋で発した衛生学の源流から、松江市民は先人の奮闘の恩恵にあずかっていたのだ。

1895（明治28）年、バルトンは松江であった衛生会の講演で「善良なる飲料水、新鮮なる空気、良い学芸員」



田野俊貞（橋城見エーステート所蔵）

島根大学附属図書館展示会「松江市における衛生思想の歴史と今」

1. 目的

松江市における水道事業は、明治39年(1905)に松江市議会で議決され、大正3年(1914)から工事を開始し、大正7年にやっと通水した。この発端は幕末からたびたび流行したコレラ、赤痢、腸チフスなどの伝染病であり、その原因となった不衛生な井戸水などへの対応であった。解決に向けて動き出したのは、愛知県公立医学校(現名古屋大学医学部)で後藤新平(後の衛生局長)と共にオーストリア人医師ローレツから衛生学を学んだ後、後藤の推薦により松江市へ赴任した医師田野俊貞であり、松江市の水源地として左水を提案した後、台湾の台北市の水道整備を進めた衛生工芸技師バルトンらであった。

今回、松江バルトン会は、予防医学の気運が醸成されつつある中で衛生の考えを取り入れ、衛生思想として松江市民へ広めた先人の努力と上下水道の歴史と今を紹介する。

2. テーマ「松江市における衛生思想の歴史と今 ― 田野俊貞、後藤新平、ローレツ、バルトン ―」

3. 主催 松江バルトン会 共催 島根大学附属図書館

後援 日本水循環文化研究協会、臺北自來水事業處、松江市上下水道局・文化財課、
松江市医師会、島根県建築士会、松江東ロータリークラブ、城西公民館、
福島造船鉄工所、今岡ギャラリー、城見エステート

4. 会場 島根大学附属図書館1F 展示室・多目的室(附属図書館3階)

5. 開催期間

(1)展示 令和6年10月1日(火)～11月3日(日)

*10/12(土)～10/14(月・祝)は大学祭のため、休館。

*10/19(土)～10/20(日)のみ稲場紀久雄氏所蔵の貴重資料3点を特別展示

(2)ギャラリートーク(場所:展示会場)

10月1日(火) 10:30～11:00 ギャラリートーク(梶谷光弘氏)

10月20日(日) 10:30～11:00 ギャラリートーク(岡崎秀紀氏)

(3)講演会

10月1日(火) 14:00～14:40 梶谷光弘氏「衛生の時代到来

― 衛生思想の普及と田野俊貞の活躍 ―

14:50～15:30 松江市上下水道局 杉谷雄二氏「松江市の水道の歩み」

10月20日(日) 14:00～14:40 岡崎秀紀氏「バルトンが計画した松江市と台湾の下水整備」

14:50～15:30 足立正智氏「近代化産業遺産としての

松江市水道施設と建造物」

(4)講話(場所:附属図書館3階多目的室)

10月18日(金) 15:00～15:30 日本水循環文化研究協会評議員・前理事長 稲場紀久雄氏
「都市の医師バルトン先生―松江と京都の足跡から―」

15:30～15:50 日本水循環文化研究協会 稲場日出子氏

「W.K.バルトンの妹メアリー・ローズ 130年の旅をして2024年に帰還！」

(5)DVD放映(展示会場入口の大型ディスプレイ)

自來水博物館と松江市上下水道局の紹介

6. 展示内容

(1)パネル

入口ボード 松江バルトン会会長挨拶

入口ボード 祝詞(日本水循環文化研究協会 評議員 稲場紀久雄氏より)

入口ボード 祝詞(茶野節子氏より)

入口スタンド 展示のねらい

① 臺北自來水事業處長からのご挨拶(中国語・日本語訳)

② 「予防」から「衛生」へ

③ 田野俊貞について

④ ドイツ人教師からドイツ医学を学んだ田野俊貞

- ⑤ 愛知県公立医学校・病院におけるローレツと後藤新平、
- ⑥ ローレツが教えた衛生学、衛生警察
- ⑦ ローレツから衛生思想を学んだ後藤新平と田野俊貞
- ⑧ 松江市指定文化財「田野家住宅(旧田野医院)」の保存
- ⑨ 松江市へもたらされた近代医学と衛生思想
- ⑩ 医師後藤新平の活躍
- ⑪ 後藤新平が著した『国家衛生原理』
- ⑫ W.K.バルトンの紹介(全国調査地図)
- ⑬ 松江市におけるバルトンの活動
- ⑭ 台湾におけるバルトンの活動
- ⑮ 松江市水道事業の歴史
- ⑯ 協力いただいた団体・個人、参考文献

写真1: 田野俊貞、写真2: ローレツ・後藤新平から田野俊貞に贈られた写真と裏書、
 写真3: 後藤新平、写真4: バルトンらとの記念写真、写真5 バルトン
 写真6: 新店溪の取水口から下流および臺北市街を望む・臺北自來水博物館 建物と前庭

(2) 展示台等

- ① 田野俊貞の履歴と愛知県公立医学校での活躍
- ② 島根県医学校・松江病院で活躍した田野俊貞
- ③ 田野家が所蔵する洋書
- ④ ローレツが愛知県公立医学校で教えた医学
- ⑤ 田野俊貞の生涯の友人後藤新平
- ⑥ バルトンの松江市における水道調査
- ⑦ バルトンの台北における水道調査
- ⑧ 田野俊貞、後藤新平、ローレツ、バルトンの関連図書
- ⑨⑩ 田野俊貞が交流した人々
- ⑪ 松江バルトン会関連書籍

(3) 配布物

- ① 展示概要・展示パネル資料一覧・展示台資料一覧
- ② 茶野節子氏のローレツ研究紹介
- ③ 松江の水道 通水百周年記念 DVD『不舍晝夜』購入申込書
- ④ アンケート

7. 展示会場



島根大学附属図書館展示会「松江市における衛生思想の歴史と今」写真

1 展示会場





2 10月1日(火)

(1)ギャラリートーク



(2)講演会



3 10月6日(日) 日本水循環文化研究協会酒井 彰 理事長来館



4 10月18日(金)

(1)開会行事



(2)稲場紀久雄・稲場日出子氏の講話



(3)鄧淑晶氏より本の寄贈



(3)稲場紀久雄・稲場日出子氏、濱野靖一郎氏、鄧淑晶氏との座談会



5 展示替え(10月19・20日)



6 10月20日(日)

(1) ギャラリートーク



(2) 講演会



6 新聞報道(山陰中央新報、2024年10月2日)

明治松江 衛生向上に尽力

明治松江市の伝染病予防など衛生環境の向上に尽力した4人にスポットを当てた企画展が1日、同市西川津町の島根大付属図書館で始まった。写真や当時の新聞記事などの資料や解説パネル約90点を展示する。11月3日まで、入場無料。

4人は日本で初めて衛生学を教えたA・ローレス(1846〜84年)、内務省衛生局長の後藤新平(1857〜1929年)、島根県医学会を創設した田野俊貞(1855〜1910年)、松江の水道事業の基盤を築いた英国人技師ウィリアム・D・バルトン(1846〜99年)。

展示では、後藤が日清戦争帰国後の検疫事業などを推し進めたことや、コレラや赤痢が流行していた島根県で田野が県医学会を創設したこととを紹介。2人が現在の名古屋大医学部で衛生学を教えたローレスに影響を受けたことを示すほか、松江で水道調査を実施し上下水道の整備に尽力したバルトンの偉業も伝える。

企画展を主催した松江バルトン会の髙谷光弘さん(右)は「コロナ禍を経て、改めて衛生について考えるきっかけにしてほしい」と述べた。(小引久実)

松江で企画展 医師や技師紹介

衛生思想の普及について解説する松江バルトン会の髙谷光弘さん(右)＝松江市西川津町、島根大付属図書館

参 考 資 料

日本水循環文化研究協会バルトン関係資料（Webpage 掲載）	1
バルトン略年表	3
巴爾頓年表	5
関連台湾史年表	11

日本水循環文化研究協会バルトン関係資料（Webpage 掲載）

スコットランドで育った W.K.バルトン（1856～1899）は、明治期の我が国において上下水道技術者を育成するため、お雇い外国人として 1887 年（明治 20 年）に招聘されました。来日後は、帝国大学工科大学衛生工学講座の初代教授、内務省衛生局雇工師を兼務し、幾多のエンジニアを育成するとともに、全国 28 もの都市をめぐり、上下水道事業に関する助言・指導を行い、日本の「衛生工学の始祖」と仰がれています。

本会では、前身の日本下水文化研究会の時代から、毎年、8 月 5 日の命日に青山墓地の墓前にお参りし、講演会などを開いてきました。そのなかには、1999 年の没後 100 年記念事業、さらに生誕 150 年を記念する 2006 年及び没後 110 年の 2 回にわたり、日本・スコットランド交流事業を東京・アバディーン・エディンバラで開催しました。

ここでは、本会が行ってきた W.K.バルトンを祈念する活動の記録を取りまとめてまいります。なお、①は日本下水文化研究会法人化 20 周年記念誌に掲載されたバルトン記念事業に関する章です。②は 2009 年の日本とスコットランド記念交流事業の記録です。それぞれ文字をクリックいただければアクセスできます。③については、本会が刊行を続けている機関誌に収められた講演録です。1999 年に行われたバルトン没後 100 年記念シンポジウム、1998 年以前、2000 年以降の講演録に分けて掲載しております。バルトン忌の講演録リストはこちらです。

- ① 日本下水文化研究会法人化 20 周年記念誌所収「W.K.バルトン記念事業」
- ② W.K.バルトン記念日英交流事業 2009 報告書 （W. K. Burton Memorial Anglo-Japanese Exchange Project）
- ③ バルトン忌ならびにバルトン記念事業の足跡

青山霊園のバルトン墓地の前には下記の看板が立っています。右の QR コードをクリックしていただくとこのページにリンクします。



墓地の前の看板（左は霊園によるバルトンの紹介）と QR コードを拡大したもの

刊行年	講演開催年	号	タイトル	講演者・著者	講演形式等
1993	1992	5	墓碑が語るバルトン人脈	稲場紀久雄	バルトン忌講演
1993	1992	5	近代上下水道の父、バルトン	藤田 賢二	バルトン忌講演
1993	1992	5	近代下水道の原点と現在 - 未来	小林 康彦	バルトン忌講演
1994	1993	6	バルトン先生来日経路の疑問	稲場紀久雄	バルトン忌講演
1994	1993	6	祖父パーマーを語る	樋口 次郎	バルトン忌講演
1995	1994	7	バルトン ～鳥海たへ子さんの遺稿から～	稲場紀久雄	バルトン忌講演
1995	1994	7	バルトンと横浜	堀 勇良	バルトン忌講演
1995	1994	7	シスター・ザビエからの手紙	稲場日出子	バルトン忌講演
1996	1995	8	バルトンと京都	稲場紀久雄	バルトン忌講演
1996	1995	8	バルトンと福沢諭吉の不思議な関係	稲場日出子	バルトン忌講演
1996	1995	8	インドネシアで学んだこと	石井 明男	バルトン忌講演
2000	1999	11	バルトンと台湾の水道	斉藤 博康	バルトン百回忌 講演
2000	1999	13	バルトン没後百年記念シンポジウム プログラム・来賓あいさつ等		バルトン没後百年記念シンポジウム
2000	1999	12	バルトンと東京水道	増子 敦	バルトン没後百年記念シンポジウム
2000	1999	12	バルトンとスコットランド	稲永 丈夫	バルトン没後百年記念シンポジウム
2000	1999	12	バルトンが遺した業績を集めて	照井 仁	バルトン没後百年記念シンポジウム
2000	1999	12	【パネルディスカッション】 バルトンの偉業とその今日的意義	市川新・稲場紀久雄・坂本弘道・玉井 義弘・早瀬隆司・（司会）酒井彰	バルトン没後百年記念シンポジウム
2001	2000	13	バルトン先生と周囲の人々	石井 貴志	バルトン忌講演
2002	2001	14	山の御爺・中川金治と東京の水源林	稲場 紀久雄	バルトン忌講演
2016	2015	28	下水道法改正法の成立とその期待～大転換時代の事業改革目標	稲場紀久雄	バルトン忌講演
2016	2015	28	シャーロック・ホームズはスコットランド人だった ～謎と冒険に満ちた名探偵の世界へようこそ～	田中 喜芳	バルトン忌講演
2017	2016	29	バルトンが歩んだ道をたどって	平山 育男	バルトン忌講演
2017	2016	29	下水文化研の三〇年及びバルトン生誕一六〇年にあたって	稲場紀久雄	バルトン忌講演
2018	2017	30	下水道人の夢を語る～長与専斎、バルトン、久保起、そして関西の群像	稲場紀久雄	定例研究会（関西）
2021	2020	33	女傑・叔母メアリーとバルトン先生	稲場 紀久雄	バルトン忌講演
2021	2020	33	三人のパートン、二人のドイル	田 中 喜 芳	バルトン忌講演

W. K. バルトン略年表

西暦年 (和年号)	バルトンの生涯	バルトンの仕事	その頃の日本のできごと
1856年(安政3年)	エディンバラで誕生 (5月11日)		前年 「安政大地震」
1871年(明治4年) ～73年(明治6年)	エディンバラ・カレッジエイト・スクールで勉強		明治5年 新橋横浜間鉄道開通
1873年(明治6年) ～78年(明治11年)	ブラウン・ブラザース社に入社 技術見習者として修業を積む		明治6年 銀座煉瓦街完成
1880年(明治13年)	ロンドンで叔父コスモイネスと 共同で 「イネス&バルトン・エンジニアリング」を設立		明治12年 東京府がコレラ患者避病院を開設
1882年(明治15年)	衛生保護会主任技師となる	著書 「写真のABC」 出版	明治15年 日本銀行創立
1887年(明治20年)	日本政府の招聘により来日 (5月 20日) 帝国大学衛生工学講座初代教師となる	後藤新平らと東北地方主要都市の衛生調査を行う・7月	明治20年 東京に電灯がつく
1888年 (明治21年)	内務省衛生局雇工師兼職となる (1月1日) 東京市区改正委員会上下水道設計調査委員主任となる (10月12日)	磐梯山噴火調査を行う・7月 「東京市区上水設計第一報告書」を提出・12月	明治21年 市制、町村制公布
1889年(明治22年)		「東京市下水道設計第一報告書」を提出・7月	明治22年 大日本帝国憲法発布
1890年(明治23年)	浅草凌雲閣・総監督 (基本設計担当)	浅草雲園完成 11月13日	明治23年 第一回帝国議会開く
1891年(明治24年)	長女多満 (たま) 誕生 英国土木学会会員となる	濃尾大地震被災地撮影・10月 写真集『日本の大地震 1891』出版	明治24年 上野一青森間鉄道開通
1892年(明治25年)		著書 「都市の給水」 出版	明治25年 伝染病研究所創立
1893年(明治26年)	荒川満津 (まつ)と結婚	J. ミルンとの共著で写真集「日本の大地震」を出版 写真集「日本の生活風景」を出版	明治26年 碓氷峠にアプト式鉄道開通
1894年(明治27年)	勲四等旭日小綬賞を贈与される (5月)		明治27年～28年 日清戦争
1895年(明治28年)		写真集 「日本の力士と相撲」 出版	
1896年(明治29年)	帝国大学工科大学衛生工学教師解職 (6月20日) 台湾総督府衛生工事顧問技師嘱託となる (8月6日) 台湾全土の衛生工事調査と台北市、台中市、基隆市の上下水道の調査設計を委嘱される (8月)	「衛生工事調査報告書」を台湾総督府に提出	日清戦争後明治28年に下関条約により台湾が日本に譲られる
1897年(明治30年)		台湾南部諸都市の衛生状況調査	明治30年 各地に米騒動起こる
1898年(明治31年)		台北市第2期上水道水源調査	明治31年 東京市改良水道通水 (日本橋・神田)
1899年(明治32年)	英国への休暇帰国を願い出て日本に向かい 東京で急逝 (肝臓アブセス) 享年43歳		明治32年 東京市水道工事完成。落成式12月

(出典：W.K.バルトン生誕150年記念誌)

巴 爾 頓 年 表

西元年 (日本年號)	巴爾頓的生涯與重要事件	日本的事件
一八五六 安政三年	*父親約翰・希爾・巴頓和母親凱薩琳・伊內斯的長男、出生於愛丁堡舊市區的羅利斯頓廣場廿七號(五月十一日) *父親是律師、歷史學者 *母親是提倡女性人權的前衛推動者	*美國駐日總領事湯森・哈里斯來日就任(十月廿一日) *吉田松陰、松下村塾開校
一八六一 文久二年	*遷居至克雷格宅邸、在美麗的郊區度過幸福快樂的少年時代 *亞瑟・柯南・道爾(小三歲)是親同手足的兒時玩伴	*高輪東禪寺英國公使館襲擊事件 *幕府遣歐使節團出航、福澤諭吉隨同 *(一八六三年伊藤博文等人前往英國)
一八七一～一八七三 明治四～六年	進入愛丁堡高等專科學校學習	*岩倉遣外使節團出航(一八六三年十月八日)
一八七二 明治五年	遠眺投宿愛丁堡皇家飯店的岩倉遣外使節團團員	*新橋一橫濱間的鐵道開通 *伊藤博文副使向格拉斯哥大學提出工部省工部寮工學校教師派遣之申請
一八七三～一八七八 明治六～十一年	作為安東尼・貝斯・布朗的徒弟、進入布朗兄弟(船舶機械製作)公司學習技術	*明治六年：工部寮工學校開設(亨利、戴爾、米倫等九名被派遣至日本) *(一八七七年：西南戰爭日)
一八七八 明治十一年	從印度歸國的舅舅(古斯摩・伊內斯・朱尼爾)成為英國土木學會會員(一月十五日)、跟著舅舅學習土木衛生工學等技術	*大久保利通被暗殺(五月十四日) *竹橋騷動鎮壓(八月廿三日) *(一八七九年：日本松山霍亂疫情發生、死者高達十萬人)
一八八〇 明治十三年	*在倫敦與舅舅合夥設立「伊內斯&巴爾頓工程技術顧問公司」 *和舅舅共同執筆撰寫《一般住宅衛生檢查》一書發行	*井上外務卿向各國宣布條約修訂方案(七月六日)
一八八一 明治十四年	*父親約翰・希爾逝世(八月十日) *列入英國攝影協會會員(十一月八日)	
一八八二 明治十五年	*晉升為倫敦衛生保護協會主任技師 *在英國攝影協會的總會上朗讀〈修改明膠過程〉論文 *著書《現代攝影術ABC》發行(出版德語版、法語版等、並再版多次、	*日本銀行設立 *東京的芝、神田等地區出現霍亂疫情、死者超過三萬人

西元年 (日本年號)	巴爾頓的生涯與重要事件	日本的事件
	是英國攝影界最被寄予厚望的攝影家	* (一八八三年大日本私立衛生會創設)
一八八四 明治十七年	在倫敦萬國衛生博覽會時、遇見永井久一郎	*東京府神田污水下水道施工 *永井前往歐洲各國考察、調查上下水道制度
一八八六 明治十九年	*接受帝國大學工科大学招聘、遠從英國前來擔任衛生工學教師 *渡邊洪基校長委請駐英公使河瀨真孝面試人選	*帝國大學令公布(三月二日) *未曾有的霍亂疫情大流行、首都東京成為「瀕死的都市」(全國患者十五萬人、死者十一萬人)
一八八七 明治二十年	*來自河瀨公使的面試合格 *在英國攝影記者送別會上被推薦成為英國攝影協會榮譽會員 *經由美國來日 *就任帝國大學工科大学土木工學科衛生工學首位教師(五月廿六日) *舅舅(古斯摩·伊內斯·朱尼爾)逝世 *與後藤新平等進行北日本主要都市的衛生調查(七月)	*永井久一郎出版《巡歐紀實衛生二大工程》(四月一日) *鹿鳴館白熱電燈點燈(首次的點燈營業)
一八八八 明治廿一年	*進行磐梯山火山噴發調查 *擔任東京市區改善委員會自來水供水及污水下水道設計調查委員會主任(十月十二日) *提出「東京市區供水設計第一報告書」(首都東京水道計畫)(十二月) *受託擔任內務省衛生局顧問技師(十二月廿四日)	*市制・町村制公布(四月廿五日) *磐梯山火大噴發(死者四百四十四名)(七月十五日) *東京市區改善條例公布(八月十六日)
一八八九 明治廿二年	*日本攝影會設立、就任書記(六月七日) *提出「東京市區改善污水下水道設計第一報告書」(七月六日)	*大日本帝國憲法公布
一八九〇 明治廿三年	*巴爾頓弟弟古斯摩·伊內斯·巴頓和弟媳蕾貝卡來日(七月七日) *設計監督淺草十二樓(凌雲閣) *弟弟古斯摩·伊內斯驟逝於上海(十月卅一日) *淺草十二樓開始營業(十一月十一日)	*水道條例公布(二月十二日) *第三屆國內勸業博覽會舉辦 *第一屆帝國議會開議(十一月廿五日)
一八九一	*成為英國土木學會準會員	*上野一青森間鐵道開通

西元年 (日本年號)	巴爾頓的生涯與重要事件	日本的事件
明治廿四年	*濃尾大地震受災地調查(十月廿八日)	*濃尾大地震房屋全燒毀約十四萬戶、死者約七千二百名
一八九二 明治廿五年	*攝影集《日本的大地震一八九一》出版 *攝影集《日本的火山：第一冊 富士山》出版 *馬德克《小鳶小姐一明治廿三年的羅曼史》的攝影師(凸版印刷純中階調攝影製版印刷) *長女多滿誕生(九月二十日)	*傳染病研究所設立
一八九三 明治廿六年	*英國攝影展覽會舉行，五月十四日起為期一個月	
一八九四 明治廿七年	*妹妹瑪麗・蘿絲・希爾來日(四月) *與荒川滿津結婚(巴爾頓四十歲・滿津廿二歲)(五月十九日) *妹妹瑪麗・蘿絲・希爾離開日本(十月六日) *攝影集《日本的戶外生活風景》出版 *《都市的供水及水道設施的建設》出版 *東京地震引起淺草十二樓大樓龜裂進行整修工程	上陸檢疫以防瘟疫的擴散(六月七日) *東京地震(M7.0) (六月二十日) *向清朝宣戰(八月一日)
一八九五 明治廿八年	*米倫與妻子利根一起離開日本(六月廿一日) *攝影集《日本的力士與相撲》出版	*日清條約(四月十七日) *台灣割讓給日本、台灣總督府條例制定(八月六日)
一八九六 明治廿九年	*辭任帝國大學工科學衛生工學教師(六月二十日)(後任中島銳治) *勳四等旭日小綬章授贈 *依後藤請託就任台灣總督府衛生工程技術顧問 *受台中市、基隆市上下水道調查委託(八月) *向總督府提交《衛生工程調查報告書》 *考察上海、香港、新加坡居留地(十一月下旬起三個月)	*河川法交付(四月八日) *日本郵輪、歐洲定期航路開始
一八八九～一八九六 明治二十～明治廿九年	*作為內務省衛生局技術顧問，在東京、大阪、京都、名古屋四大城市，函館、橫濱等五個開港都市，仙台、廣島等縣廳所在城市，以及下關、門司等二十八个都市進行上下水道計畫的指導 *衛生工學技術者人才輩出	

西元年 (日本年號)	巴爾頓的生涯與重要事件	日本的事件
一八九七 明治三十年	*台灣南部各城市的衛生狀況調查	*傳染病預防法公布 *京都帝國大學設立 *帝國大學改稱為東京帝國大學 (六月廿二日)
一八九八 明治卅一年	*後藤新平就任台灣總督府民政長官 *台北第二期自來水道水源調查 *調查時不幸感染地方風土病九死一生 *母親凱薩琳逝世於伯雷斯金宅邸	*東京市公所開設(十月一日) *痢疾、傷寒桿菌大流行
一八九九 明治卅二年	*準備回英國度假前在東京遽逝(八月五日)、享年四十三歲 *葬於青山靈園(八月七日)	*東京市水道工程完成 *瘟疫患者出現(十一月五日)
一九〇〇 明治卅三年	*妹妹瑪麗・蘿絲過世(六月五日) *門生、友人、熟識者共同攜手建置巴爾頓墓碑	*下水道法、污物掃除法公布
一九〇一 明治卅四年	*巴爾頓的永田町官舍全燒毀(二月九日) *滿津及多滿兩人受貝爾茲花、普林克利、巴爾頓同父異母的姊姊及米倫等人支援	*英外相向林公使提出日英同盟條約草案(十一月六日)

関連台湾史年表

一五四四	ポルトガル船が台湾の近くを通過し、この島をフォルモサと名づける				
一五九三	豊臣秀吉が台湾の「高山国」に入貢させようと原田孫七郎を使者として派遣したが、実現せず				
一六〇九	徳川家康が有馬晴信に命じて台湾を攻撃。原住民を捕虜として連れ帰る				
一六二四	八月、オランダの東インド会社が台南に到着。台湾の西部を占領				
一六二六	スペインが台湾北岸を占領				
	浜田弥兵衛が台湾を襲撃				
一六二七	オランダがキリスト教布教を本格化する				
一六二八	七月、浜田弥兵衛とオランダ長官ヌイスとが講和を結ぶ				
一六三四	ゼーランジャ城（現・安平古堡）完成				
一六四二	オランダが台湾北岸からスペインを追放				
一六五三	プロビンシア城（現・赤嵌楼）完成				
一六六一	三月、鄭成功が澎湖島に上陸、台湾にいるオランダに攻撃開始				
	十二月、オランダが投降、台湾から撤退する				
一六六二	五月、鄭成功死去（三九歳）。アモイにいた長男の鄭經が後継者に				
一六八四	清朝の台湾統治が始まる				
一八五六	淡水、基隆、安平、打狗（現在の高雄）を開港、宣教師のキリスト教布教を許可				
一八五八	天津条約によって台南・安平（アンピン）港や基隆港が欧州列強に開港される				
一八七一	牡丹社事件。宮古島の漁民六六人が台湾に漂着、五四人が先住民に殺害される				
一八七四	日本の台湾出兵（征台の役）。以後、清朝は台湾積極開発政策を採る				
一八八四	清仏戦争が勃発して台湾もフランス軍に攻撃される				
一八八七	劉銘伝が基隆―台北間に鉄道を敷設				
一八九四	七月、日清戦争が始まる				
一八九五	四月、日清戦争後の下関条約で、台湾および澎湖諸島が清朝から日本に割譲される				
	五月、アジア最初の共和国ともされる台湾民主国が成立				
	六月、日本軍が基隆、台北、淡水と北部の主要拠点を制圧。台湾総督府が始政式典を挙行				
	十月、台湾民主国が崩壊				
一八九六	原敬が台湾事務局に同化と非同化の「台湾問題二案」を提出。同化政策を主張				
一八九七	台湾住民の国籍選択最終期限				
	「台湾売却論」の登場				
一八九八	土地調査事業が始まる				
	三月、四代総督に児玉源太郎就任、後藤新平も同時に総督府民生局長に就任				
一八九九	九月二六日、「株式会社台湾銀行」の営業開始				
一九〇〇	台南―高雄間に鉄道開通				
	十二月、三井財閥による台湾製糖株式会社成立				
一九〇一	総督府が水利事業の整備のため「台湾公共埤圳規則」を公布				
	十月、台湾神社鎮座式				
	十一月、地方制度変更。台湾全土に二〇の庁を設ける				
一九〇二	抗日勢力が壊滅的な状態となる				
一九〇三	土倉龍治郎が台北電気株式会社を設立				
一九〇五	土地調査事業が終了				
	この年度より日本国政府の補助金を辞退				
一九〇八	台湾南北を縦貫する鉄道の縦貫線が完成				
一九一〇	台湾初の人口調査。三一〇万人				

一九一一	二月、阿里山鉄道開通				
一九一五	最後の抗日武装反乱・西来庵事件（タパニー事件）が勃発				
一九一八	初の文官総督、田健治郎が八代総督に就任				
	総督府の本庁舎が完成				
	台湾総督明石元二郎が各公営・民営発電所による台湾電力株式会社を設立				
一九二〇	八田與一が「嘉南大圳」建設に着工				
一九二一	一月、林献堂らが台湾議会設置運動を始める				
	十月、台湾文化協会発足。林献堂が会長に就任				
一九二二	蓬莱米の栽培に成功。台湾の米の生産が大きく進展する				
一九二三	鳥居信平が設計した地下ダム「二峰圳」が完成				
一九二五	五月、治安維持法が台湾でも施行される				
一九二七	台湾文化協会が分裂、また台湾民衆党が結成される				
一九二八	台北帝国大学開校				
一九三〇	「嘉南大圳」が完成				
	十月、台湾山間部の霧社で先住民の蜂起事件（霧社事件）が起きる				
一九三四	台湾議会設置請願運動を停止する				
	日月潭第一発電所の完成				
一九三五	新竹・台中地震				
	日月潭第二発電所の建設開始				
	十月、「台湾始政四〇周年記念大博覧会」を開催				
一九三七	皇民化運動実施				
一九三八	五月、国家総動員法が台湾でも施行される				
一九四〇	台湾人の日本名使用を進める「改姓名運動」を展開				
一九四一	皇民奉公会の発足（皇民化推進）				
一九四三	正式に義務教育が実施される				
一九四四	九月、徴兵制度が実施。同時に台湾住民にも衆議院の選挙権が認められる				
	児童の就学率が九二・五パーセントとなる				
一九四五	日本が連合軍に戦敗し、第二次世界大戦が終わる				
	十月二五日、台北公会堂（現・台北中山堂）で「中国戦区台湾地区降伏式」が行われる				
一九四六	五月三一日、勅令により台湾総督府は廃止され、日本の台湾統治が終わる				
一九四七	二月二八日、「二二八事件」が起きる				
	四月二二日、陳儀行政長官を罷免、長官公署を廃止し、「台湾省政府」を設置				
一九四八	五月、蒋介石が第一期総統に就任				
一九四九	国民党政府、中国本土より撤退し、政府を台北に移す。台湾に戒厳令をしく				
	十月一日、中国共産党が「中華人民共和国」の建国を宣言				
一九七一	国連で国民党政府が「中国」の代表権を喪失。同時に国連から脱退				
一九七二	蔣経国、行政院長に就任。日華平和条約が終了、日本と断交				
一九七三	十大建設開始。このころの前後、「奇跡」といわれた経済成長が続く				
一九七五	総統・蒋介石死去。嚴家淦が総統、蔣経国が国民党主席に就任				
一九七八	蔣経国が総統に就任				
一九七九	一月一日、アメリカと国交断交				
	四月、アメリカが台湾関係法を制定				
	十二月、美麗島事件。高雄で起きた民主化を目指す人々のデモ隊と警官隊との衝突				

一九八六	九月、台湾初の野党、民主進歩党が結成される			
一九八七	七月十五日、戒厳令解除			
一九八八	一月、蔣経国が急死、副総統だった李登輝が総統に昇格。初の台湾出身者の総統			
一九八九	四月、外省人二世の独立運動家・鄭南容が焼身自殺			
一九九一	五月、「動員勘乱時期臨時約款」を廃止、中国との戦争状態終結を宣言			
一九九五	江沢民主席が台湾政策八項目を提案、李登輝総統が対して六項目を提案			
一九九六	三月、台湾で初の総統選挙。李登輝が過半数の得票率で当選			
一九九八	上海で台湾と中国の窓口交流機関代表が会談			
一九九九	マグニチュード七・三の台湾大地震発生、死者二〇〇〇人以上			
二〇〇〇	陳水扁（民進党）が総統選挙で当選、中国国民党が初めて野党となる			
二〇〇二	台湾がWTOに加盟			
二〇〇三	世界最高層（当時）のビル「台北101」（一〇一階）が完成			
二〇〇四	二月、二五〇万人が手をつないで台湾に向けて配備した中国のミサイルに抗議			
二〇〇七	一月、台湾新幹線開業			
二〇〇八	三月、総統選挙で国民党の馬英九が当選、国民党が政権を奪還			
	五月、蔡英文が民進党主席に就任（民進党初の女性党首）			
二〇一〇	台湾と中国とで経済協議「ECFA」を締結。馬英九の中国傾斜に大きく批判の声が上がる			
	新北市が発足。台北国際花の博覧会を開催。			
二〇一二	日本の尖閣諸島国有化で日台関係緊迫。			
	一月、馬英九が総統に再選される			
二〇一四	12年国民基本教育（中国語版）を実施。ひまわり学生運動が起こる。			
二〇一六	蔡英文が総統に就任し、民進党が政権を奪還。鴻海精密工業がシャープを買収。			
二〇一七	台北ユニバーシアードを開催。			
二〇一八	台中フローラ世界博覧会を開催。宜蘭線普悠瑪号脱線事故発生。			
二〇一九	台湾省を事実上廃止。台湾民衆党結成。			
二〇二〇	台湾で新型コロナウイルスの感染確認。中央流行疫情指揮中心の下で防疫対策に乗り出す。			
二〇二二	ペロシ米下院議長が台湾訪問。			
二〇二四	頼清徳が総統に就任。WBSC世界野球プレミア12で台湾が初優勝。			